

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

▼雪は資源

二月に入って寒波が居座った。寒波襲来は除雪や交通網の混乱など、困りごとのよ

うに報道されるが、雪は雨と違ってゆっくり地中へ浸透して山を潤す。融雪期には豊富な水となって農業、生活、工業、発電用水として

下流域を支えている。雪は流域にとって大切だ。都市部の人たちは、上流域の自然へ目を向ける機会が少なくなっているように思う。

二十五団体が活動報告

井上嵩裕隊員 法人運営の現状や課題を説明

環境に関わる人や団体が集まって広島市の未来を考える「ひろしま環境ミーティング」が一月二十五日、二十六日の両日、広島市南区のユーハイム似島歓迎交流センターで開かれた。「二〇三〇年に向けて話そう」をテーマにした十一の分科会では二十五団体が活動報告をした。さんけんの井上嵩裕隊員は法人とLOUPEの運営などを説明した。主催は特定非営利活動法人・環境パートナーひろしま。昨年に続き二回目。

ひろしま環境ミーティング



分科会「ひろしまの自然史博物館のこれから」に参加したメンバー

二十二人が参加した分科会「ひろしまの自然史博物館のこれから」では井上隊員のほか、西中国山地自然史研究会の上野吉雄理事、長、芸北高原の自然館の河野弥生さん、広島大学総合博物館の清水則雄館長ら五人が登壇した。

三段峡とLOUPEの役割や法人の運営状況を説明した井上隊員は、行政からの支援が限られている中で展示物の維持・管理に課題があるとしながら、市民団体であるため独自性や自由度の高さがあると述べた。

上野さんは「自然やフィールドワーカーへの理解が広がる世論の醸成が必要」と指摘し、河野さんは「自然体験がフィールドに興味を持つきっかけになり、人材育成につながる」と話し、



ブルブルッ さようなら LOUPE 仕切って寒さ対策

寒さ対策のため LOUPE を簡素な資材で間仕切りしてさんけんの事務所が誕生。暖房費の節約と展示している動植物への影響を避けるためでもある。費用は2万円。昨年まで間借りしていた三段峡ホテルの改築に伴い、LOUPE を事務所兼用にしている。

三段峡と可部との連携PR

本宮炎理事長 広島FMの番組に出演

広島FMの番組「山本将輝の#PUSH」内の「噂通りラジオ」コーナーに一月二十三日、本宮炎理事長が出演して三段峡の魅力や安佐北区可部地区との連携について説明した。噂通り

番組で大戸さんは同ホテルの三段峡の壁画や噂通りが三段峡とつながったきっかけを説明し、本宮理事長は「今年は可部―三段峡間の自転車ツアーをしたい」と、「噂通り」とのタイアップ企画の抱負を語った。

セピア写真帖

(27)



危なっかしい栈道 三八豪雪で壊滅

八幡村三段峡保勝会が一九五三年に作製した「三段峡フォトアルバム」に掲載されている峡内の栈道である。英語を使った本のタイトルが戦後を感じさせる。

写真の解説には「耶源の上流」とあるが、該当する場所は思い当たらない。下流の王城か、庄兵衛岩のトンネルが出来る前だろうと思う。現在の岩壁や流れを手掛かりに見比べると前者のようでもある。

本連載第一回で紹介した女夫淵の栈道よりさらに狭く、山水面のように風景へ溶け込んで興をそそるが、大人数は厳禁で、すれ違いはヒヤヒヤだったろう。木柱を岩壁上部へ打ち込んで、ワイヤーで吊るしているように見える。維持管理は大変だったに違いない。現在なら、安全上絶対認められない構造物だ。

六三年(昭和三八年)の「三八(さんぱち)豪雪」は全国で甚大な被害を出し、三段峡でも木造の建物や栈道、橋がほぼ壊滅した。正確な時期は分からないが、三八豪雪の痛い経験によって、風情はあるが耐久性の乏しい木製を諦め、現在のような全てコンクリート製か、トンネルに変わったのだろう。(松尾俊孝)

脱東京 安芸太田を発信

岩本真名弥さん



東京都出身、販売業に携わっていたが自然のある環境へ惹かれていた。2022年、地域おこし協力隊(林業担当)に採用されて安芸太田町へ移住した。明るく好奇心旺盛な性格で、SNSを使って仕事現場や地域の情報、田舎暮らしの様子を盛んに発信している。

町内やLOUPEでモリアオガエルや祇園坊柿をあしらった手拭いを販売。三段峡の動植物を描く細密画教室に参加して上達中。「三段峡の探勝路は最高の癒しスポット」と話し、生態系や文化面で刺激を受けている。「さんけんは魅力を世界へ発信するハブになってほしい」(炎)

この人